

研究

研究活動の活性化と若手研究者育成に向けた取組【P6左(6)】

- 「三重大学COEプロジェクト研究」の推進
- 三重大学研究力ステップアップ支援事業、三重大学独自の・先駆的研究拠点形成支援事業、三重大学国際研究推進支援事業の3つの新制度を平成25年度に向け策定
- 若手研究者の育成と研究意欲向上を目指した「若手研究者の海外研修支援制度」、「若手研究プロジェクト」の実施
- 勢水丸の共同利用推進【P9右(13)】



◇学長裁量経費による各種支援

- ・部局責任者の管理下において研究が開始できるための環境整備への支援【三重大学COEプロジェクト研究】  
【当該研究科長等への予算配分：3件、9,000千円】
- ・若手研究者の国際学会参加への海外渡航費等支援  
【41名（教員17名、学生24名）】
- ・優れた若手研究者の研究推進への支援  
【10名、各500千円（応募者：32名）】

産学官連携活動への取組【P6右(7)】

- 「地域戦略センター」における大学発シンクタンクとして地域の自治体に対する総合的な政策提言・産業育成・活性化のための企画
- 人文学部と上野商工会議所・伊賀市との連携による「三重大学伊賀連携フィールド」の開設
- 地域イノベーション学研究所による「社会人の学び直し」への取組



◇受託事業等実績「地域戦略センター」

- ・受託事業等：12件・52,180千円  
【地方自治体等10件、民間企業等2件】

◇「三重大学伊賀連携フィールド」

- ・「伊賀再発見！－「忍者」をテーマとする市民講座の開催
- ◇地域産業の指導的立場の社会人入学（入学割合：92%）

社会との連携

地域防災事業の推進【P7左(8)】

- 三重県・県内市町との協働による7事業の展開
- 「三重さきもり塾」の第3期卒業生を輩出
- 安全・安心な地域社会の実現を目指すための組織「東海圏減災研究コンソーシアム」の立ち上げ、参画



◇地域内の連携による防災事業推進基盤の構築、地域社会のセーフティネットの形成の促進

- ・さきもり塾卒業生 特別課程生：14名、入門コース生：48名
- ・名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、岐阜大学、静岡大学、三重大学の6大学による「東海圏減災研究コンソーシアム」協定締結（平成25年3月3日）



三重の力を世界へ

平成24年度(2012)の実績・その1

－ “教育研究等の質の向上” に係る状況編 －

教育

能動的学習の推進【P4左(1)】

- 「『4つの力』スタートアップセミナー」をはじめとするPBL形式での授業開講の推進



◇PBLに関するFD、授業支援等を実施

- ・学士課程：366、大学院課程：218 計584の講義演習をPBL形式として開講（全学の約13%）

共通教育及び専門教育との連携による環境教育の推進【P4右(2)】

- 「世界一の環境推進大学」を目指した三重大学ブランドの環境教育の推進
- 共通教育及び専門教育との連携による学内外に通用する環境資格取得の実践的環境教育
- アジアの環境問題解決の即戦力となるグローバル環境人財育成



◇ダブル・トライアングル翠のネットワーク

- ◇「持続発展教育（ESD）プログラム」修了者  
・268名（割合：全学部平均の19.4%）：H24入学在籍者

学生支援方針に従った組織的支援機能の充実化【P5右(5)】

- 障がい学生支援室の設置（H25.4開設への整備）
- キャリア・ピアサポーター資格教育プログラムの充実・キャリア教育の発展



◇学生総合支援センター機能の充実

- ・学生生活支援室、障がい学生支援室（H25.4）、学生なんでも相談室、キャリア支援センター
- ◇キャリア・ピアサポーター資格取得（平成24年度）  
・初級資格取得者74名、上級資格取得者16名
- ◇文部科学省補助金事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」採択（東海北陸地域23大学幹事校）
- ◇インターンシップ：122機関・238名参加
- ◇就職ガイダンス（学内企業研究会【参加企業：535社】含む）30回、延べ8,339名参加

国際化

国際化の推進に向けた多様な取組【P5左(3)、P7左(9)】

【全学的な国際交流活動】

- 名古屋大学、愛知教育大学との3大学間連携による国立大学改革強化推進事業「アジアを中心とする国際人材育成と大学連携による国際化の加速的推進」の採択
- アジア諸国における国際交流協定大学との国際インターンシップの推進
- 3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウムへの学生・教職員の参加
- 国際交流月間2012による多様なイベントの実施

【部局別の国際交流活動】

- 人文学部における韓国世宗大学との相互単位認定の国際インターンシップの推進
- 教育学部における天津師範大学（中国）とのダブル・ディグリープログラムの継続
- 医学部における「早期海外体験実習」、「海外臨床実習」の推進
- 工学研究科における英語教育カリキュラム「国際教育科目」の新規開講
- 生物資源学研究所におけるパジャジャラン大学（インドネシア）とのダブルディグリープログラムの開設



◇全学・部局における国際化への多様な取組

- ・国際インターンシップの推進  
12名の学生に2週間から3ヶ月間の国際インターンシップを行い、2単位から4単位の単位認定  
人文学部：5名、世宗大学：3名の相互単位認定
- ・「3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウム」（インドネシア ポゴール農科大学）にて学生・院生15名が参加、英語による論文発表を実施
- ・医学部の海外協定大学との国際交流  
「早期海外体験実習」（第1～4学年対象）：58名派遣  
「海外臨床実習」（第6学年対象）：46名派遣  
海外協定大学から19名の学生受入れ
- ・英語科目の履修学生数  
工学研究科博士前期課程在籍学生の370名（約75%）  
国際シンポジウムにおいて英語による論文発表

附属病院

附属病院取組【P8左(11)】

- MMC（Mie Medical Complex）プログラムによる研修者受入れ
- 各診療現場の意見を病院経営に反映させることによる効率的な運営
- 診療科の枠を超えた病棟編成による診療の本格的稼働
- ドクターヘリによる地域の救命救急体制の強化・充実



◇専門診療科での研修を支援（研修者22名を受入れ）

- ◇病床稼働率：約2.2%向上、平均在院日数：0.5日の減少
- ◇臓器別フロア、介護フロア、女性フロア、小児フロアがそれぞれ機能し、効率的に診療を開始
- ◇ドクターヘリ総出動件数：288件  
（本院：159件、伊勢赤十字病院：129件）

環境

「世界一の環境先進大学」に向けた事業の継続と新たな取組  
【P10左(1)、P27左①】

- 環境ISO委員会が中心となった学内3R (Reduce、Reuse、Recycle) 活動の継続実施
- 全国の大学初の経済産業省の補助金事業「三重大学スマートキャンパス事業」の継続実施  
目標値：CO<sub>2</sub>排出量24%削減（平成22年度比）  
実績値：21.6%（2/22～3/14の間の7日間）
- 「環境・情報科学館」の活用、環境整備の推進
- “COOL ACTION”（5月から10月）、“WARM ACTION”（12月から3月）の実施：10.7%のエネルギー削減
- 平成24年度以降さらなるCO<sub>2</sub>削減を目指し、「三重大学実験装置等省エネルギー実証事業」の推進
- 「MIEUポイント（「個人の努力」を「見える化」する環境ポイント付与制度）」の実施



- ◇環境ISO14001認証の継続
- ◇創エネ・蓄エネ・省エネへの取組
  - 再生可能エネルギー（太陽光発電設備、風力発電設備）、蓄電池設備、ガスコージェネ発電設備等を稼働  
CO<sub>2</sub>排出量の21.6%（2/22～3/14の間の7日間）削減
  - 三重県、津市、企業関係者等に概要説明会と設備完成見学会を開催
- ◇環境・情報科学館
  - 太陽光パネルの設置、全館LED照明などのエネルギーロスを削減する工夫、外壁の熱負荷低減、屋上緑化、水資源の有効活用など環境に配慮した建物
  - 建築環境総合性能評価システム（CASBEE）Sクラス評価（自主評価）
  - 附属図書館との渡り廊下での接続による一体運用
- ◇文部科学省の「大学等における実験・研究に関する省エネルギー実証事業」受託
- ◇「MIEUポイント」の第1回目のポイント交換実施
- ◇実績等による外部評価
  - 「第22回地球環境大臣賞 文部科学大臣賞」、「平成24年度地球温暖化防止活動環境大臣賞（環境教育・普及啓発部門）」、「ワットセンス・アワード2012エコ・リーグ（熱血活動部門）賞」、「第1回みえ環境大賞（環境活動部門）」

区分		22年度	23年度	24年度
夏期 (5-10月)	使用量(kl)	3,359.10	3,215.00	3,019.70
	前年度比	8.4	▲ 4.3	▲ 6.1
	平均気温(°C)	24.0	23.4	23.4
冬期 (12-3月)	使用量(kl)	2,449.50	2,260.90	1,869.90
	前年度比	7.9	▲ 7.7	▲ 17.3
	平均気温(°C)	6.6	6.5	6.5
夏・冬期 合計	使用量(kl)	5,808.60	5,475.90	4,889.60
	前年度比	8.3	▲ 5.7	▲ 10.7



学長ガバナンス

学長のガバナンス強化に向けた取組【P15左①】

- 学部長等の選考手続きの見直し
- 全学体制による教養教育体制の構築



- ◇役員打合せにおいて学長、役員等の確認・了承の上、手続きを進めるものとし、執行部による意思決定、合意形成の確立
- ◇平成25年度に教養教育体制の構築に向けた設置準備室を発足

総合防災訓練

学内防災力向上に向けた取組【P27右②】

- 南海トラフを震源とする東海・東南海・南海3連動地震による大規模災害を想定した総合防災訓練等の実施
- 地震災害に対する心構え・防災意識向上を図る「三重大学教職員・学生防災研修」の実施
- 学内の津波による避難方法の周知
- 情報セキュリティの高度化



◇総合防災訓練

- 参加人員（図上訓練・避難訓練）  
教職員：347名、学生：46名、地域住民：約250名（一部自宅、下宿先からの学生含む）
- ユニバーサルパスポートシステム（通称：ユニバ）による安否確認者数：1,100名（約2時間）

◇「三重大学教職員・学生防災研修」

- 5回開催【5月、6月、7月、10月、12月（留学生を対象に英語により実施）】

◇津波の警報種類に応じた避難行動啓発板を学内各所に設置

- 学内110カ所に設置

◇BCP（事業継続計画）【P7右(10)・P8左】

- データのバックアップ体制の整備
- 附属農場管理棟にサーバー室を新設：標高50m

教員人事

男女共同参画事業への取組【P15左②】

- 女性教員（研究者）増加に向けた実践的活動組織への改編
- 女性企業家による講演会、男性の育児参加と輝く女性をテーマとしたトークセッション等の開催
- 様々な側面からの男女共同参画活動への積極的な展開



◇男女共同参画推進専門委員会に3つのWGを設置

- 「理工系の女性支援・ロールモデル研究部門」、「意識改革・啓発活動部門」、「連携部門」
- ◇共通教育での男女共同参画に関する授業開講
  - 「男女共同参画基礎」、「男女共同参画実践」
- ◇三重県が推進する「男女がいきいき働いている企業」認証取得に向けた準備
- ◇厚生労働省三重労働基準局雇用均等室発行の「三重における男性育児休業事例と両立支援取組企業好事例集」に本学の取組が掲載

情報提供

3つの広報戦略の強化【P22】

- 紙媒体の戦略：配布先の新規開拓
- Web戦略：ホームページの改修、動画サイトの新設
- マスメディア戦略：三重大学番組の三重テレビ放送による制作・放映



◇三重大学えっくすによるアンケート調査結果

- 「毎回楽しみにしている」、「研究の紹介コーナーが興味深い」、「大学の敷居が下がった」などの高評価
- ◇メールマガジン購読登録者

経費削減

経費削減に向けた取組【P19左②】

- 「派遣業務」、「職員宿舍管理委託業務」の再雇用職員への業務移行
- 保全業務と環境美化保全業務の一元化と複数年契約の実施
- 井水の利用による水道料金削減



◇再雇用職員への業務移行

- 平成23年度契約額との比較：4,170千円の削減

◇井水の利用による水道料

- 約2,700千円の削減 → 削減額による省エネに向けた改修を実施

教育

学生支援

研究

業務運営等

- 『4つの力』スタートアップセミナーをはじめとするPBL形式での授業開講の推進
- 統合的に修学達成度を可視化・省察・検証できる「修学達成度可視化システム」の構築と改善

- 学生総合支援センターに「障がい学生支援室」の整備（H25.4開設）
- キャリアピアサポーター資格教育プログラムの充実・キャリア教育の発展

- 「三重大学COEプロジェクト研究」当該研究科長等へ3件、9,000千円予算配分
- 優れた若手研究者の研究推進「三重大学若手研究プロジェクト」、「若手研究者の海外研修」への支援
- 三重大学研究カステップアップ支援事業、三重大学独自の・先駆的研究拠点形成支援事業、三重大学国際研究推進支援事業の3つの新制度を策定

- 学長のガバナンス強化に向けた取組
- 自己収入の増収に向けた取組
- 管理的経費削減に向けた取組
- 3つの広報戦略の強化
- 情報セキュリティの高度化
- 公的研究費の不正防止・物品の不正転売再発防止に向けた取組

地域

- 「三重さきもり塾」では、第3期生となる特別課程生14名、入門コース生48名が卒業
- 地域イノベーション学研究科：地域産業の指導的立場の社会人の入学、地域発のイノベーションを起こせる人財を育成
- 亀山地域医療学講座、伊賀地域医療学講座、津地域医療学講座を設置、地域医療に当たる人財を育成
- 「教育関係共同利用拠点」勢水丸の他大学学生等による共同利用の推進

- 平成24年度～26年度文部科学省補助金事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に採択：東海北陸地域23大学の幹事校として、地域・産業界との連携

- 地域戦略センターにおける大学発シンクタンクとして地域振興、産業育成、環境政策、医療福祉政策などの立案
- 「東海圏減災研究コンソーシアム」6つの国立大学法人の研究組織の連携による防災・減災に関する教育・研究、安全・安心な地域社会への実現
- 四日市市コンビナート安全対策委員会への参画コンビナート企業への防災診断項目の策定支援、コンビナートの地震、津波対策の向上への貢献

- 地域に開かれたプラットフォームとして環境・情報科学館を活用
- 総合防災訓練への大学周辺地域住民の参加
- 三重県、フレンテみえなど、産官学民との連携による男女共同参画活動の推進

環境

- 「世界一の環境先進大学」を目指し、三重大学ブランドの環境教育として「持続発展教育（ESD）プログラム」を共通教育及び専門教育との連携によって実施し、グローバル環境人財を育成

- (株)シャープ三重工場の協力により、自転車や家電の提供を受け、新入生や留学生に無料で譲渡

- 3R活動（Reduce、Reuse、Recycle）として、レジ袋削減のためエコバック配布、放置自転車・家電の回収と新入生・留学生への無料譲渡

- 平成25年度以降さらなるCO2削減を目指し、文部科学省の「大学等における実験・研究に関する省エネルギー実証事業」を受託
- 全国大学初の経済産業省の補助金事業「三重大学スマートキャンパス実証事業」の継続  
目標値：CO2排出量24%削減（平成22年度比）  
実績値：21.6%（2/22～3/14の間の7日間）

- 大学に隣接する町屋海岸での住民、行政、企業との連携による清掃活動及び海浜生物観察会の実施

- 省エネ活動「COOL ACTION」、「WARM ACTION」の実施（平均約10%のエネルギー削減）
- 「MIEUポイント」（環境活動の見える化、インセンティブ付与）実施
- 「第22回地球環境大賞の文部科学大臣賞」、「第1回みえ環境大賞（環境活動部門）」、「平成24年度地球温暖化防止活動環境大臣賞（環境教育・普及啓発部門）」

- 日本初の総合大学として「ユネスコスクール」に登録（平成21年8月）し、三重県内の小・中・高校の16校をユネスコスクールとして登録
- 附属中学校のユネスコスクール登録

国際

- 名古屋大学・愛知教育大学との3大学間連携による国立大学改革強化推進事業「アジアを中心とする国際人材育成と大学連携による国際化の加速的推進」の採択
- 人文学部：世宗大学（韓国）との相互単位認定の国際インターンシップ
- 教育学部：天津師範大学（中国）とのダブルディグリープログラムの推進
- 医学部：「早期海外体験実習」、「海外臨床実習」の推進
- 工学研究科：英語教育カリキュラム「国際教育科目」の新規開講
- 生物資源学研究科：パジャジャラン大学（インドネシア）との新たなダブルディグリープログラムの開設

- 名誉教授2名からの寄附金を基に「外国人留学生助成金」、「タイ人留学生助成金」制度を創設し、外国人留学生3名への授与
- 留学生向けの英語による防災啓発研修会の実施
- 中国人を特任講師に採用し、本学留学生の60%を占める中国人留学生への支援体制の整備

- 「第19回3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウム」に本学各学部・研究科から学生・院生15名、教員5名の参加

- 「国際交流月間2012」実施（延べ2,000名参加）留学生の「三重大学伊賀連携フィールド」巡検、留学生と日本人学生との交流会実施
- 外国人教員増加策（外国人特任教員（教育担当）雇用について各学部1人目は雇用経費の50%、2人目以降80%を支援）